

宮城県受託事業「令和4年度 みやぎ女性応援プロジェクト実態調査業務」

はじめに

当センターでは、宮城県より「令和4年度みやぎ女性応援プロジェクト実態調査業務」を受託し、県内の大学生・短期大学生及び県内企業を対象にアンケート調査（学生には追加インタビュー調査）を実施した。本稿では、調査の概要と調査結果のポイントを紹介する。

1. 調査の目的及び内容

1-1 目的

宮城県では、大学・短期大学を卒業した学生の半数近くが就職を機に県外に転出しており、高齢化や人口減少の要因の一つとなっている。こうした現状を緩和するため、多くの若年層、特に女子学生が県内に定着しやすい環境の整備を推進することが求められている。

そこで本調査では、県内の大学・短期大学生

及び県内企業を対象にアンケート調査（学生には追加インタビュー調査）を実施し、学生の就職に対する考え方や就職活動、就職先に求める要件と、県内企業の女性採用と女性活躍の取組みなどの実態を把握する。そして若年層、特に女子学生の県内への就職及び定着に有効な施策や若年層への効果的な施策等の広報、庁内の広範な業務に活用するための基礎資料とすることを目的とする。

1-2 調査内容

(1) 宮城県内大学・短期大学学生就職等調査

県内に設置されている大学等により構成される「仙台学長会議」に加盟する大学及び短期大学19校に在籍し、翌年、翌々年（調査時点より起算）に就職を控える学部生及び短大生（約25,000名）を対象に、就職に対する考え方や就職活動、就職先に求める要件などを調査した。

調査は、アンケート調査とインタビュー調査を実施した。インタビュー調査については、ア

宮城県内大学・短期大学学生就職等調査の概要 ※ 女子学生の結果

<アンケート調査>

- 調査対象：県内に設置されている大学等により構成される「仙台学長会議」に加盟する大学及び短期大学（19校）に在籍し、翌年、翌々年に就職を控える女子学生1064名
- 実施時期：2022年6月 ■ 調査方法：Webアンケートシステムを活用したインターネット調査
- 回答者属性：【出身地】宮城県58.9%、東北（宮城県除く）29.5%、その他11.6%、【学校】大学生87.0%、短大生13.1%、【学問分野】文系60.5%、理系28.4%、その他（芸術、スポーツなど）11.1%

<インタビュー調査>

- 調査対象：上記アンケート回答者でインタビュー参加への同意が得られた協力者から県内就職意向の有無や就職活動の意識などの回答傾向を踏まえて抽出した女子学生12名
- 実施時期：2022年7月 ■ 調査方法：Web会議システムを活用したオンライングループインタビュー
- 回答者属性：【希望する就職先地域】県内企業就職内定者5名、県内就職希望者3名、県外企業就職内定者3名、県外就職希望者1名

企業等女性活躍実態調査の概要

- 調査対象：従業員数10名以上の宮城県内543社
- 実施時期：2022年6月 ■ 調査方法：紙面アンケート調査
- 回答企業属性：【所在地】仙台市内57.3%、仙台市外42.7%、【業種】建設業16.8%、製造業10.3%、運輸通信業6.5%、卸売業、小売業19.8%、宿泊業、飲食サービス業7.1%、医療、福祉10.4%、その他サービス業16.0%、その他13.1%、【企業規模】10～99人66.3%、100～299人21.2%、300人以上12.6%

ンケート回答者の中から対象者を抽出し、アンケート調査では把握しきれない県内就職及び定着に対する意識の実態を明らかにした。

(2) 企業等女性活躍実態調査

県内の産業別構成比をもとに無作為抽出した従業者数10名以上の県内企業1,525社を対象に、女子学生の採用意向や採用活動、職場の女性活躍やワーク・ライフ・バランスの取組み状況などを調査した。

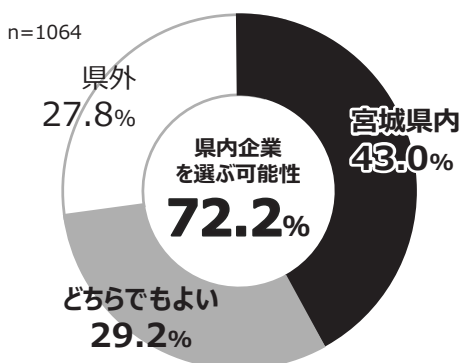
2. 調査結果

以下では、女子学生の就職に関する意識や実態、将来展望について両調査から明らかとなったポイントを紹介する。

2-1 女子学生の7割が県内企業を選ぶ可能性あり

希望する就職先地域について(図1)、「宮城県内」(43.0%)が最も多く、「どちらでもよい」(29.2%)、「宮城県外」(27.8%)の順となった。

図1 希望する就職先地域



※ 希望する就職先地域別で「①希望する就職先の規模」及び「②県内農林水産業・食品加工業への就業検討の可能性」についてみると、いずれも就職先地域を定めていない女子学生「どちらでもよい」が高かった (①64.6%、②40.2%)

就職先検討段階では就職先地域未定の女子学生が3割も存在し、県内希望者と併せて7割の女子学生が県内定着に結び付く可能性があることが明らかとなった。

2-2 就職先を選ぶ上で重視するポイントは風通しのよい職場環境や充実した福利厚生制度、やりがいのある仕事の有無

就職先を選ぶ上で重視するポイントは(図2)、「職場の雰囲気や人間関係が良いこと」(56.1%)、「福利厚生制度が充実していること」(41.5%)、「やりがいを感じられること」(35.7%)が上位となった。女子学生は風通しの良い職場環境や、やりがいのある仕事ができることを重視していた。

2-3 就職先選びで知りたい情報も職場環境や風土、具体的な仕事内容、福利厚生制度。しかし、企業はそうした情報の発信が不十分

女子学生が就職先を選ぶ上で知りたい情報も前述の重視するポイントと同様の傾向がみられており(図3)、「人間関係や職場の雰囲気」

図2 就職先を選ぶ上で重視するポイント

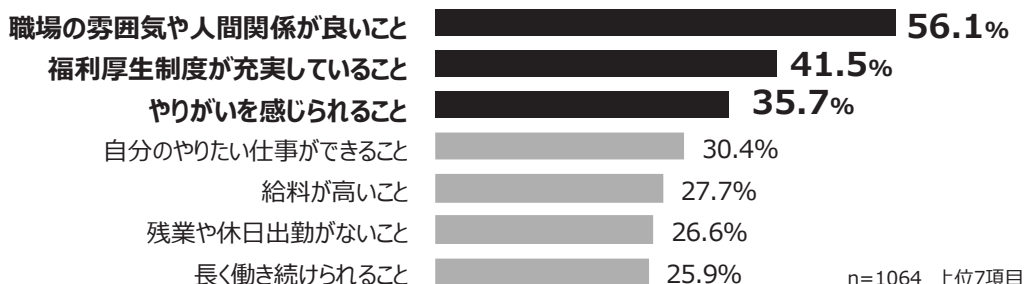
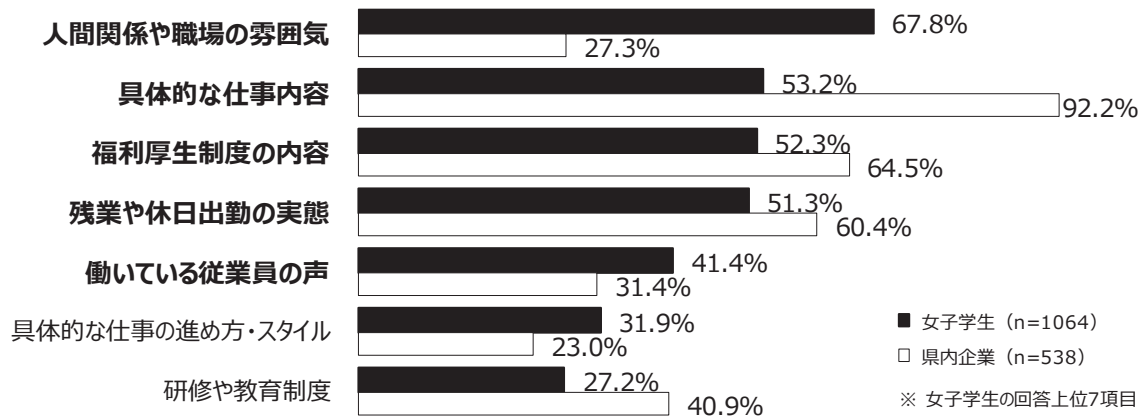


図3 就職先を選ぶ上で知りたい情報・採用活動に伴い公表している情報



(67.8%) が最も多く、「具体的な仕事内容」(53.2%)、「福利厚生制度の内容」(52.3%)、「残業や休日勤務の実態」(51.3%)、「働いている従業員の声」(41.4%)が続いた。一方、県内企業が採用活動に伴い公表している情報については、「具体的な仕事内容」(92.2%)は9割超の企業が公表しているものの、「人間関係や職場の雰囲気」(27.3%)、「働いている従業員の声」(31.4%)など職場の実態に関する情報の発信は3割程度にとどまった。女子学生が知りたい情報と企業が公表する情報にミスマッチが生じていることが明らかとなった。

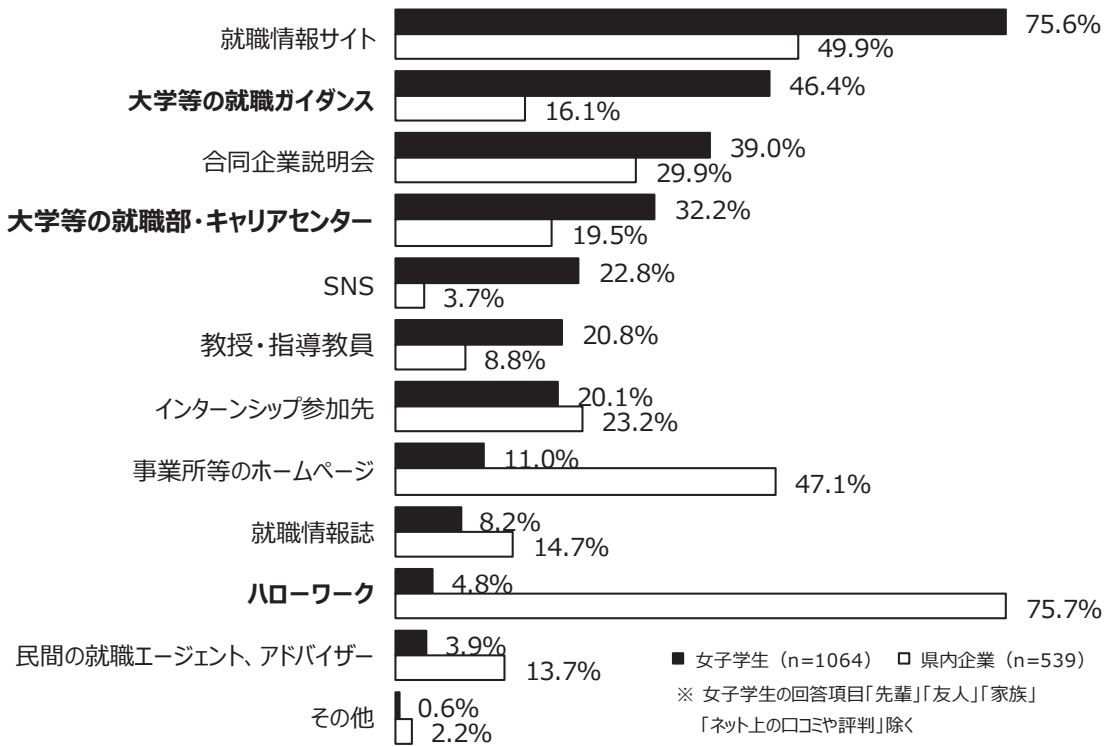
2-4 女子学生の就職活動に関する情報入手先と県内企業の採用活動で活用している手段に大きなミスマッチあり

女子学生の就職関連情報の入手先について


(図4)、「就職情報サイト」(75.6%)、「大学等の就職ガイダンス」(46.4%)、「合同企業説明会」(39.0%)が上位となった。一方、県内企業が採用活動で活用している手段については、「ハローワーク」(75.7%)が最も多く、「就職情報サイト」(49.9%)、「自社ホームページ」(47.1%)が続いた。企業が最も活用しているハローワークの女子学生の活用は1割(4.8%)に満たず、女子学生の情報入手先と県内企業の活用手段にも大きなミスマッチがあることがわかった。

大学就職部などの活用について、女子学生と県内企業の回答割合を比較すると、「大学等の就職ガイダンス」が30ポイント以上(46.4%、16.1%)、「大学等の就職部・キャリアセンター」が10ポイント以上(32.2%、19.5%)の差が見


図4 就職関連情報の入手先・採用活動で活用している手段




宮城県内企業だったら
学校の就職部に相談すれば
すぐに答えてくれる
(県外就職者)



結局選考に進んだ2社は
人づてに聞いたり
大学の就職部に来たところ
(県内就職者)



大学主催の説明会は
宮城県内企業が中心だったので、
そこで県内企業の情報を知った
(県外就職者)



られた。インタビュー調査によれば、女子学生は県内企業の情報を大学から得ており、県内企業にとって大学との連携は女子学生採用の大きな鍵となることがわかった。

2-5 女子学生一人一人に合わせて適切なサポートを行ってくれる企業や職場の働き方の実態を包み隠さず教えてくれる企業は好印象

インタビュー調査によれば(図5)、就職活動を行う中で印象の良かった企業は、女子学生一人一人に合わせて適切なサポート(先輩社員との座談会、社員訪問など)を行ってくれる企業や説明会で社員から職場の雰囲気の良い感じが感じられる企業、職場の働き方の実態を包み隠さず教えてくれる担当者がある企業となった。

また、面接において企業から対等に接しても

らえていると感じられる企業や説明会や面接などの運営に入念な準備を行っている企業も印象が良かった。

2-6 採用におけるIT化が進んでいない企業や女子学生への真摯な対応が欠如している企業はマイナス印象

インタビュー調査によれば(図6)、就職活動を行う中で印象の悪かった企業は、オンラインツールが使いこなせなかったり、メールではなく電話での連絡や対面での対応が中心であったり、採用におけるIT化が遅れている企業となった。

その他、面接やインターン中に過度な地元話で盛り上がろうとする企業や面接で対等に接してくれようとしめない企業も印象が悪かった。

図5 印象の良かった企業

- こういところが不安だと言ったら**会社の先輩の話を聞く座談会**に参加させてもらったり、そういうサポートをしてくれたところに好感を持った（県外就職者）
- 説明会の雰囲気や社員同士の会話の雰囲気に着目していた。**社員同士がフラットな関係で、リラックスした雰囲気**があり、しかもそれが作りこまれていない自然な感じがしたので今の会社を選んだ（県外就職者）
- 説明会で実際に働いている人の話を聞いた。**福利厚生とか休日とか何も隠さず話してくれる社員がいた会社**があって、そこは信用できるなと思った（県外就職者）
- （面接の際に）**相槌を打ってくれる会社**さんは印象がよかった。内定をもらって決めた会社は相槌もあつたし、ちゃんと話を聞いている感じがした（県内就職者）
- 面接中でも面接官ではなく**一社会人として対等に話してくれる方**は印象がよかった（県内就職者）
- **連絡が早い企業は印象がよかった**。面接について送るとすぐに連絡がきた企業は仕事でも滞りなくやっているということだからいい印象だった（県内就職者）
- 今はほぼオンライン。オンラインでやっていてサクサク進めていける企業はあつた。**会社のITスキルが見える**。それがスムーズにできている企業は好印象だった（県内就職者）



図6 印象の悪かった企業

- 会社説明会はZoomのオンラインで行われた。招待リンクのメールが**当日の開始時間になっても送られてこない**。Zoomが始まって、**社員さんの説明の段取りが悪い**。会社説明会は会社の入り口。そこで「これはどうだったっけ？」というのを見せられたらこっちも困る。この時点でここはないなと思った（県内就職者）
- オンラインの面談では接続トラブルがあつた。**トラブルの原因は会社だったのにこっちが原因**という感じにされた（県内就職者）
- **連絡手段が電話しなかったこと**。こんな時期だしリモートでもよかったのではないかと思う（県内就職者）
- **地元のノリみたいな感じが多かった**。出身地や出身校の話がされたが、自分あまりついていけなかった。このことも宮城県でなくてもいいと思った要因の1つだと思う（県外就職者）
- 相槌がないとすぐ負担を感じる。審査だけずっと相槌もなく聞かれているとちゃんと聞いてくれているのか不安になる。**就活だけどこちが上だからという態度**を出すのはどうだろうと思う（県内就職者）



2-7 7割の女子学生はワーク・ライフ・バランスを重視した働き方を希望

希望する働き方について（図7）、「仕事とプライベートを両立させたい」（74.2%）が最も多かった。インタビュー調査によれば、両親の勧めや意見に従って就職先や働き方を決めたケースは少ないが、親の姿を見て自身の働き方や生き方、就職先を考える女子学生が多かった。

希望する暮らし方について（図8）、インタビュー調査によれば、県内企業に就職したくない理由として、首都圏企業に比べ給料が低く、一人暮らしができないことが挙げられた。同じく、県内就職・就職希望者からは一人暮らしをしたい気持ちはあるものの、金銭的な余裕のなさから実家暮らしを選択するといった意見が聞

かれた。県外・県内就職の如何にかかわらず、女子学生の一人暮らしに対する憧れやニーズは高いことが明らかとなった。

2-8 半数以上の女子学生が育児をしながら働きたいと考えている

希望する将来のライフコースについて（図9）、結婚を希望する（「専業主婦」「DINKS」「再就職」「DEWKS」）割合が88.5%、結婚を希望しない（「ワーキングシングル」）割合が11.5%であった。「DEWKS」を希望する割合（50.8%）が最も高く、大半の女子学生は同じ就職先で出産、育児を経ながらキャリアを積んでいくことを意識しているものと考えられる。

図7 希望する働き方

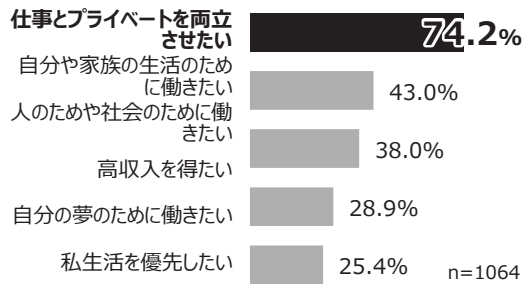


図8 希望する暮らし方

- 宮城を出てみたい。自分1人で生活してみたい。宮城県だと給料が安くなる。だったら宮城県にこだわることはないと思った（県外就職者）
- （県内企業を検討した）友達の話を聞くと、実家から通えば大丈夫だけど一人暮らしだと厳しい給料だから、選考を受けないところもあったみたい。（県内企業の給料は17万いかないぐらいだから厳しいと思った（県外就職者）
- 就職しても実家暮らし。一人暮らしをしたい気持ちもある。自分で自立して生きていけるようにならないといけないのではないかという不安もあって一人暮らしをしたい（県内就職者）
- 就職しても実家がいいと思っている。一人暮らしに憧れた時期もあったけど、今は家に帰ってきたら人がいるという方が安心する（県内就職希望者）
- 一人暮らしに対する憧れはある。自由だからというもある。でも一人暮らしをするのにもお金がかかる。光熱費、家具に出す元手がない。現実的に一人暮らしは難しい、したいけどできない状況（県内就職者）



女子学生が求めるワーク・ライフ・バランスが整う環境を整備することは、様々な事情を抱える社員の働きやすさにつながり、人材の定着にも結び付く。企業において多様で柔軟な働き方が可能な環境を早急に整備していくことが求められる。

おわりに

本稿では、宮城県が2023年3月に公表した「令和4年度みやぎ女性応援プロジェクト実態調査業務」の調査結果のポイントを紹介した。

本調査結果は下記、宮城県のサイトで公開されている。

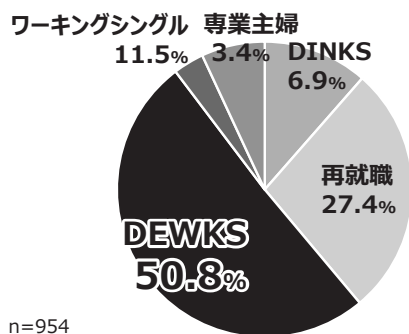
この調査結果が企業並びに自治体、関係者の皆様の女子学生の採用・定着に向けた取組みにご活用いただければ幸いです。

（調査研究部 伊藤）

調査結果 URL

https://www.pref.miyagi.jp/site/zuutto_miyagi/news/230328_01.html

図9 希望するライフコース



- 「DINKS」：結婚するが子どもは持たず、仕事を続ける
- 「再就職」：結婚し子どもを持つが、結婚あるいは出産を機に一旦退職し、子育て後に再び仕事を持つ
- 「DEWKS」（＝両立）：結婚し子どもを持つが、産休や育休を活用しながら仕事も続ける
- 「ワーキングシングル」（＝非婚就業）：結婚せず、仕事を続ける
- 「専業主婦」：結婚あるいは出産を機に退職し、その後は仕事を持たない